



(一社) 山梨県造園建設業協会

2019
vol.32

豊かな緑で山梨の未来を創る!

ぞうえん山梨

LANDSCAPE YAMANASHI



第5回街路樹フォトコンテスト最優秀賞
「緑映える公園で」木谷 昌経 作品

E-mail:info@zo-en.or.jp URL:<https://zo-en.or.jp/>



Facebookで「いいね！」してね
山梨県 造園協会 検索



C O N T E N T S

—— 目 次 ——

● 会長あいさつ	3
● 平成30年度 第6回定時社員総会	3
● 山梨の緑の評価と提案について～Miraiプロジェクト～ 北村 真一 教授	4
● まちづくりのセンスを持った人材育成の難しさ 大山 勲 教授	5
● 森林再生 森づくりに活ける造園力	6
● 第5回「やまなし街路樹フォトコンテスト」	8
● 「関東甲信造園建設業協会協議会」開催	9
● 「Miraiプロジェクト」に参画して	10
● 青年部の活動報告	11
● 会員の表彰	11
● 会員名簿	12

表 紙



最優秀賞:題名「緑映える公園で」

撮影者:木谷昌経氏

撮影場所:身延町「富士川クラフトパーク」

本人のコメント:「水遊びがしたい」という娘を連れて、富士川クラフトパークに遊びにきました。コバルトブルーの空には青々とした緑が最高に映えますね。楽しそうに水浴びする子ども達の姿と、生命力にあふれる公園樹にとても癒されました。

選考理由:きれいに樹形を整えながらも勢いよく伸び伸びと育っている公園樹を上手に捉え、樹木の活力を感じる作品です。奥へと続く雄大な木々、人、風景のバランスも素晴らしい、空の青さ、高く上がる噴水やその水しぶきも、幾色にもなる木々の緑と美しくマッチしています。また水浴びをする子ども達の楽しそうな様子もよく伝わり、いまにも子ども達の笑い声が聞こえてくるようです。木々と子供たちの生き生きとした力を感じる一枚です。



(一社)山梨県造園建設業協会

社旗のコンセプト

様々な緑色で「人」の字をつくりお互いを支え合うことで、真ん中に木を浮かび上がらせました。更に山梨の象徴である富士山を表わし、山梨と造園をイメージしました。

LANDSCAPE
YAMANASHI 01

会長あいさつ



(一社)山梨県造園建設業協会

会長 石原 政人

協会の活動について

日頃より造園建設業協会の活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

当協会も一般社団法人として6年目を迎え、造園建設業の活動領域の維持・拡大に一致団結して取り組み、来年に迫った東京オリンピック・パラリンピック開催など、新たな時代に備えた社会的使命を果たしていくこととしています。

そうした中、造園建設業の健全な発展とともに人材育成事業や社会貢献事業にも積極的に取り組んでいます。

昨年10月11～12日には1都8県の造園建設業の協会関係者が一堂に会する関東甲信造園建設業協会の協議会が富士吉田市で開催され、ホスト県として県外から44社の参加者を迎える、当協会から28社参加して直面する課題である「人材確保への対応」や「造園業の将来展望」について活発な意見交換を行いました。また、懇親会や翌日の親睦ゴルフコンペ等を通して都県の枠を超えた横断的な繋がりを構築しました。

人材育成事業では、平成30年度から山梨大学「未来計画研究社」が主催し、県内8大学の学生と地元企業・団体が協働してプロジェクトに取り組む事業に参画しています。当協会では、山梨大学及び県立大学の学生と「山梨県における都市の緑の評価と提案」と題して、まずは街路樹を有する道路を景観の視点から評価し、良好な景観(魅力的な景観)となるよう、街路樹を工夫する方策を検討して、行政機関への提案を行って参ります。また、県内の高校生を対象に造園技術の出前講座を継続して実施していきます。こうした活動を通して行政機関や高校・大学等教育機関と連携を深めて参ります。

社会貢献事業として、人々が集い自然と親しむ里山づくりを目指した「きづかいの森」事業につきましては、平成28年度から公益財団法人オイスカと協働して山梨市水口地内で「ライオンの森」事業及び甲州市塩山上小田原地内で「オルビスの森」事業に参加しながら造園技術を活かして支援や技術協力を行っています。

今年も造園建設業が地域に根ざした産業として、なくてはならない存在であることを社会に訴えるとともに、万一災害が発生した場合、山梨県との防災協定に基づき、資機材の提供等の支援を行い、円滑な救助活動や災害復旧活動に協力して参ります。

LANDSCAPE
YAMANASHI 02

平成30年度 第6回定時社員総会

平成30年4月25日造園建設会館において第6回定期社員総会が開催され、造園事業功労者表彰では、(株)石原グリーン建設・小林美幸、山梨ガーデン(株)・五味智哉、(有)荻野造園・横内憲司の3氏が表彰されました。また、来賓として出席した宮川典子衆議院議員、堀内詔子衆議院議員及び県土整備部樋口有恒都市計画課長からご祝辞を頂いた後議事に移り、平成29年度決算について承認され、続いて平成29年度事業報告、平成30年度事業計画及び収支予算について了承されました。



LANDSCAPE
YAMANASHI

03

山梨の緑の評価と提案について～Miraiプロジェクト～



北村 真一

山梨大学地域未来創造センター長

山梨県景観アドバイザー、
美しい郷土づくり推進委員会委員、
富士山世界文化遺産学術委員会委員

山梨県の並木道といえば甲府の平和通りが代表的です。平和通りは、昭和61年(1986)のかいじ国体が開催される機会をうまく生かして、大きさと樹形をそろえたケヤキの大木を何本も移植して、景観を一変させたものです。さらにタイミングよく国鉄の貨物ヤード跡地の払い下げの機会も得て、駅前広場も一体的に整備され、森の都市のイメージをつくりあげました。余裕のできた駅前広場と36m幅の平和通りの7.25mの歩道には、並木の根のために地中には広く深い2.5m幅の植え枠(ます)と水と空気を送るパイプが、また空中には電線の地中化によって枝葉と競合しない広い空間が用意されました。その当時は街路樹には落ち葉処理問題などのマイナスもあり賛否両論がありましたが、国体へ向けて住民の心も一つになって理解がえられた時代でした。落葉

樹は夏季には涼風と緑陰を提供し、冬季には落葉して陽光をもたらします。平成25年に南口駅前広場や平和通りが再整備されることになり、広場には人々の活動が主役になる空間が、歩道には自転車道が整備され、アーケードを撤去して自然を取り入れ、両側を並木にする計画が実施されています。

一般的な幹線道路の並木に目を向けてみましょう。山梨には往復4車線の道路は数えるほどしかありませんので、幹線道路の多くは往復2車線で歩道のある幅員がおよそ12m～16mの道路になります。この道路では、電線地中化が十分には進まず、歩道が狭く植え枠も狭小になります。近年は植樹枠では狭いので、樹木にとってより良い連続した植樹帯が奨励されていますが、いずれにしても樹木は制限された空間で生存しなければなりません。根の張る地中や樹冠の張る地上の空間が制限されると樹勢も衰え、景観や快適効果も低下します。これらの効果の大きさは、街路に人が立った時の樹木などの緑が視野に占める割合、すなわち「緑視率」(りょくしりつ)という数値で表すことができます。緑視率が高ければ緑豊かな快適で美しい街路により近いということになります。

さて、山梨県内の大学と自治体と業界団体が協働で、地方創生にかかる若者の県内定着目的の事業「オールやまなし11+1大学と地域の協働による未来創生の推進」が平成27年度(2016)から進められています。その中に学生さんが地域や企業を知り、体験し、課題解決力を身につける人材育成のための「やまなし未来創造教育プログラム」という特別な教育課程があり、その中に「フューチャーサーチ」科目があります。この科目は、企業のかかえる課題に学生が参加して社員と学生が一体になって半年間程度取り組み、課題の解決策を提案するというインターンシップに代わる授業科目で、社会参加と課題解決能力を学習してもらうものです。



▲朝日通りの街路樹



▲学生さんによる街路樹の調査

平成30年度には、本協会からMiraiプロジェクトとして「山梨県における都市の緑の評価と提案」という題目で、近年の街路樹の課題と望ましい姿を研究するというプロジェクトを提案していただきました。現在、協会の担当者と学生さんは、いくつかの往復2車線の歩道と街路樹のある道路をケーススタディとして取り上げ、現地を調査して写真を撮り、緑視率を測定した街路樹の効果の量的評価、および樹種や剪定そして沿道の土地利用などを勘案した質的評価について研究しています。また先進的な県内外の街路樹などの視察をすることにより、良好な都市の緑の特徴を参考にして、山梨県内の街路樹の課題と解決策の提案を予定しています。県内には造園の専門学科はありませんが、学生さんは専門を超えて熱心に取り組んでいただいている、平成31年2月15日(金)には山梨県立図書館で報告会が予定されており、誰でも聴講できます。山梨県の街路樹の緑について理解を深めていただき、造園業への興味を持っていただければと期待しています。



▲平和通りの街路樹



大山 勲

山梨大学生命環境学部副学部長
地域社会システム学科教授

山梨県建築審査会、山梨県景観アドバイザー、
山梨県地域景観リーダー育成研修講師、
県内各地市町村の景観審議会、
都市計画審議会委員

上は新しい発想を出せず、活動も効率を気にして動きが鈍い。

4. 小さな実践の効果は大きい: 提案は容易だが実践に踏み出すには大きな壁がある。その壁を越えれば一気に連鎖がはじまる。実践活動が出来た学生たちは、まちづくり活動をしている大人たちと同じ土俵でコミュニケーションができる(実践経験が無ければ話題が無い)、様々な人との信頼関係の繋がりがまちづくりを支えることも自ら発見し、たとえば「人と話すときメモを取る」「名刺交換しあわせになった方にはお礼のメールを入れる」などの些細な常識の重要性も自ら自覚していった。

「それを上回る 学生をやる気にさせたポイント」

最後まで残った6人を中心には、新たに1年生も加わり今年度は20人ほどが集まった。昨年度は十分に出来なかった「地域住民との協働」を重点にPDCAを回す現場の根回しをした。しかし、やる気の出た学生は他の様々な活動にも手を伸ばしていく、限られた時間の中で優先順位の優劣をつけて活動していく必要が生じた。その時、まちづくりのセンスを得てくれたと思った学生も、住民が関わらない学生だけの活動を「まちづくり活動」と認識して優先順位を上げていった。昨年途中で脱落していった学生もこれらの活動には参加して多くの作業を夢中でこなしていた。

学生にヒアリングした結果、次のような、より上位の「やる気にさせてくれる」ポイントが挙がった。

1. 活動内容よりも仲間との作業の楽しさ

学生同士のコミュニティーを楽しむことが活動の目的や内容よりも優先され、気の合う仲間と作業を楽しむことに大きな魅力を感じた。先輩は昨年に活動経験があるので、後輩は「先輩に憧れ」、先輩は「後輩を育てる」やりがいを感じる良い関係もあった。

2. ハードルの低い入口

活動内容は簡単に思えたので、友達を誘って参加できた。1年生は4月入学直後に先輩から勧誘された。

3. 明確な参加メリット

研究室配属の条件を有利にする、市役所の人と知り合って就活に有利になりそうという参加メリットを意識。

4. レールが敷かれゴールが分かりやすい

提案発表の場などゴールが明確。作業が大変でも発表で恥をかきたくない、グループに迷惑をかけたくない心理で頑張った。発表会で褒められマスコミに取りあげられる等で自分を認められる報酬。結果的に作業に時間を費やした分、充実した時間を過ごせて高い満足感を得た。

「おわりに」

まちづくりでは「不燃」の人をいかにして「可燃」の人にするかが課題である。住民・行政・学生が協働するまちづくりの入口のハードルを通過してブレークスルーし可燃になったと思えた学生でさえ、「まちづくり活動」の優先順位を上げられず、「まちづくり」を勘違いしてしまったことはショックだった。まちづくりに住民の方たちを巻き込む方法として「ハードルを出来るだけ下げる」「楽しく作業をする」「無理しないで継続させる」などが重要と従来から言われてきたことを改めて思い返し反省した。師の背中を見せる教育、本音を語る教育では、学生はついてはきてくれない。

一方、「まちづくり」を面倒なこととして嫌う傾向は学生だけでなく、公共事業の実務の現場でも最近多くなってきており懸念を感じている。景観は「これさえやればいい」という単純明快で「地域の特徴を見ない」偏った考えが支持され、住民と協働する事業は敬遠される。

今後、地域づくりを支える人材(学生も社会人も)に、自分が楽しく満足する(楽な仕事をする)ためではなく、地域のことを考え、地域の方たちを主役にする「まちづくり」のセンスをどうやって伝えていくか。ハードルを下げても現場のリアリティに触れさせてセンスを伝えることはできるのか…、模索と実践を続けていきたい。

LANDSCAPE
YAMANASHI 05

森林再生 森づくりに活ける造園力

公益財団法人 オイスカ
啓発普及部 中山 琴葉

Profile

大分県出身。2017年4月より公益財団法人オイスカの国際協力ボランティアとして勤務。1年間の研修後、2018年4月より啓発普及部に配属。企業の森づくりのコーディネータを中心に、企業との協働事業に携わる。

2011年、オルビス株式会社(以下オルビス)は、甲州市と公益財団法人オイスカとの甲州市里山創造推進協議会を設立し、「森林整備協定」を締結。2012年、山梨県甲州市の公益的機能を果たせなくなっている市有林約100haの森を再生するという目的で「甲州市・オルビスの森」の森林整備を開始する。同社の社員の手による里山再生プロジェクトとして2012年から2017年の6年間に合計4,160本の植栽を行った。2014年からは植栽だけではなく整備という観点から「間伐」も実施。また2017年までに延べ677人の社員やその家族が参加し、社会貢献活動を通じて自然と親しみ触れ合う機会となった。オルビスは、経済効果をもたらしながら再生を繰り返す循環型社会の構築として国産材の活用にも積極的である。「甲州市・オルビスの森」の最寄り駅であるJR・中央本線の塩山駅には整備で出た間伐材を利用したベンチが設置され、オルビス本社エントランス・ロビーにもオルビスの森の材を100%使用した什器を設置している。木の香りや温もりを感じてもらうために“木育つみき”を作成。プレゼントキャンペーンも実施した。

公益的機能を發揮する森にするための整備に着手し5年が経過したところで、オルビスより“人が関わる森づくり”について提案がなされる。今までの森づくりだけでなく、人々が集い自然と親しむ里山として、また企業理念を体言し体感できる森としての再生を目的とする森づくりへ。“人と自然の共生”を目指す第一歩として、一般社団法人山梨県造園建設業協会(以下造園協会)の協力のもと、自然を活かした遊歩道整備を行うことで森を活用する動きがスタートする。造園の手法を取り入れている企業の森はまだほとんどなく、新たな試みとなった。この森を

囲うように全行程3kmを約2時間で歩くコースを設定した。山の森林に至る過程で生態系の変化が見え、天然林と人工林を混在させた「モザイク状の森」をつくる狙いは、“感受性を刺激する森”的意図があった。オルビスの森は、元はいろいろな所有者がおり、針葉樹や広葉樹の森、桑畠、棚田の跡地、小川などパッチワーク状にあらゆる環境の違いがあり、多様性に富んだ森が特徴である。この違いを利用して、森の「恵み」を感じ、人が入れる森づくりを意識した遊歩道整備



▲ 2018.11.3 集合写真



▲ 2018.11.3 遊歩道整備



株式会社アセラ

自然と化学の調和を求め、
技術アドバイスで農業をリードする。

〒400-0826 山梨県甲府市西高橋町156番地
TEL 055-235-1968 FAX 055-232-2033



防草シートを使った緑化や頑固な雑草に
お悩みの方は一度ご相談下さい！

自然と人間（みんな）が一緒に幸せになる仕事

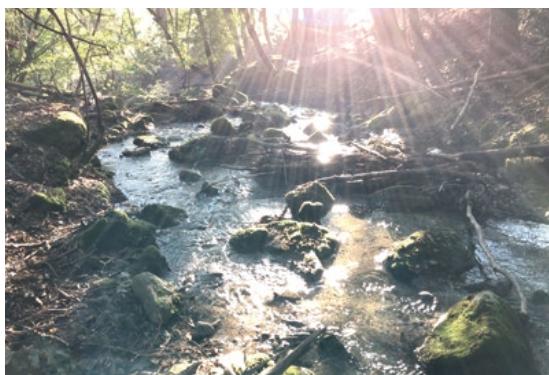
株式会社白崎コーポレーション

〒409-3601
山梨県西八代郡市川三郷町市川大門5609-1
TEL. 080-2950-9893 FAX. 055-215-2601

を進めている。こうした動きの背景には、造園協会との関わりが大きい。森林整備が中心であった時に関係者の関心はどうしても木の成長にあった。上ばかりを見ていたが、歩道整備にあたり森林内の環境整備へと目線が下がってきた。新たにハーブなどを植えた薬草畑を作り、緑を増やしより造園的な手法を用いる動きが求められるようになった。なお、一層造園協会の協力が必要となってくる。今までひたすら森の再生のために尽力していた“森林整備”から“森と共生”的な活動が強化された。

オルビスの最終目的は、人との関りを持てる、繋がりを持つ、人の集える森、そして「森林セラピー」効果の得られる森としてお客様や地元地域の方に活用してもらうことである。森林を有効活用しつつオルビスのブランドを体感できる「甲州市・オルビスの森」の整備は、今後さらに関係者のつながりをも深め一層進んでいく。

「甲州市・オルビスの森」里山整備への取り組み



▲整備された小川

2011年甲州市上小田原地内にある市有林約100haの森林において、甲州市、オルビス(株)、(公財)オイスカの三者が甲州市里山創造推進協議会を設立した。「甲州市・オルビスの森」と名付けて荒廃した森林を整備し里山として再生するプロジェクトで、2016年より造園協会も協力している。

対象計画地は、高齢化に伴う人手不足で、森林への関心が薄れ手入れが行き届かなくなってしまった荒廃森林となっていた。そこで、生物多様性の高い天然林と、木材生産を重視した人工林を混在させた「モザイク状に広がる森」を目指す里山づくりに位置づけた。天然林、人工林の持つ機能を発揮してそれぞれにふさわしい森に整備し、経済効果をもたらしながら再生を繰り返す「循環する森」を目指し、さらに「荒廃した里山を森づくりだけでなく人々が集い自然と親しみヒーリングされる里山」として整備する計画を6本の柱として立てた。1.生物多様性、2.経済効果(木材生産・木材利用など)、3.水を貯える(水源涵養)、4.土砂災害防止、5.人と森のふれあい(保険休養機能、環境教育)、6.温暖化防止。

ゾーニングは3エリアを想定し、A地区:人工林エリア(間伐や植栽)、B地区:広葉樹と針葉樹が入り混じった天然林(二次林)、C地区:サクラの森(昔の果樹園・桑畠の跡地)とした。エリアを結ぶ「5つの美しい森」として、市民憩いの森、自然ふれあいの森、林業体験の森、林業再生の森、里地里山の歴史と文化をつなぐ森をキーワードとした。

2018年度は、A地区の水辺広場・林間ステージの整備を行った。9月中旬から10月下旬にかけて造園協会が遊歩道整備、森林内除伐等の整備を実施し、11月3日オルビス関係者98名、甲州市6名、メルシャン1名、森林協会2名、オイスカ4名及び造園協会8名の計119名が8班にわかれ、丸太縁石、森林内片付け、階段設置等の作業を行った。



▲2018.10.29 森林整備

 笠井造園資材 有限会社	竹材・木材・石材販売 笠井造園資材 有限会社	総合造園緑化資材、石材砂利、越後の刃物、卸販売
<small>〒409-3866 山梨県中巨摩郡昭和町西条2461-5 TEL:055-275-2842 FAX:055-275-5554</small>		有限会社造園資材センター <small>〒400-0054 甲府市西下条町1346-1 TEL:055-220-2553 FAX:055-220-2554</small>

LANDSCAPE
YAMANASHI 06

第5回「やまなし街路樹フォトコンテスト」



▲ 最優秀賞 木谷 昌経 様



▲ 受賞者記念撮影

都市空間において良好な景観を形成する街路樹・公園樹の果たしている役割に対して理解を深め、未来に残したい風景を写し撮ることにより、県民の皆様に山梨の美しい風景・暮らしの中にいかに緑が必要なのかを知ってもらうこと、また緑の大切さにもっと関心を持ってもらうことを目的として、平成25年から「やまなし街路樹フォトコンテスト」を実施しており、平成30年で5回目となりました。

平成30年7月30日、造園建設業会館にて審査会を行い、山梨大学地域未来創造センター長・北村真一教授、山梨県県土整備部景観づくり推進室・櫻田学様他5名の審査員により、64作品の中から上位13作品を選考し、その中から最優秀賞(知事賞)1点、優秀賞2点、入賞10点を決定しました。

平成30年8月29日、県立図書館にて表彰式を開催し、多数の受賞者にご出席頂き、最優秀賞(知事賞)は県土整備部景観づくり推進室・清水宏室長より授与されました。

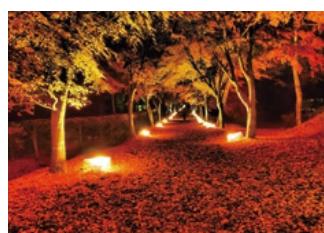
最優秀賞の木谷晶経様の写真は、コンセプトである樹木の美しさに加え、勢い(生命力)を感じる作品になっており、空の青さ、噴水の水しぶき、水遊びをする子供達の動きが木々の緑と美しくマッチしている点が素晴らしい、最優秀賞に選定されました。

入賞作品

上位13作品の中から
最優秀賞1点、
優秀賞2点、
入選10点
決定しました。



最優秀賞 「緑映える公園で」 木谷 昌経 作品



優秀賞 「赤い道」 菊池 和夫 作品



優秀賞 「新緑の小径」 真田 俊正 作品



入賞 岡田 泰文 作品



入賞 花輪 富夫 作品



入賞 古橋 隆宏 作品



入賞 伏見 真由美 作品



入賞 小尾 明 作品



入賞 三井 健 作品



入賞 嶋 輝子 作品



入賞 志村 茂雄 作品



入賞 野村 宗夫 作品



入賞 沼倉 司 作品

LANDSCAPE
YAMANASHI 07

「関東甲信造園建設業協議会協議会」開催



▲集合写真

平成30年10月11日、富士吉田市・ハイランドリゾートホテルにおいて、平成30年度関東甲信造園建設業協議会協議会が開催されました。この協議会は1都8県の造園協会会員が年に1度一堂に集まり意見交換を行う場であり、今年は山梨県がホスト県として開催しました。午前は富士山世界遺産センターの視察を行い、午後から協議会を行いました。

今年度の協議会は都県の枠を超えた造園業界の方々と率直な意見交換を行うとともに、参加者がこれからの造園建設業界の将来展望を考えるきっかけになりました。

かけになればと考えました。業界が直面する課題に対して幅広い意見交換ができるように10名程度でのグループディスカッション方式で行いました。

協議会テーマ①「人材確保への対応」では、造園建設業における担い手対策として、若手雇用の確保、継続雇用の工夫、女性・外国人雇用など幅広い雇用に対する環境づくり、雇用条件への柔軟な対応等について、成功例・失敗例などの参考事例を含めて意見交換を行いました。主な意見としては、「社会保障の充実、年間休日数の増加、やりがいのある仕事となってきていることをもっとアピールする」「造園という仕事の魅力を発信し続ける」「師弟イメージが強く、安定しているイメージがないという事を払拭していく」「インターンシップ、外国人労働者、女性雇用等、協会が窓口になって活動していく」「幼稚園、小学校等、幼いころから緑の大切さを教える」「人生設計が考えられる企業・団体にしていかなければならぬ」などが議論されました。参加者からは現状、かなり苦戦している話や前向きに新しい取り組みをしている様子など有意義な話題を聞くことができました。

協議会テーマ②「5年後、10年後の造園業の将来展望について」では、会社事業の拡大について会社の規模に応じた自社での取り組みの具体例を、また将来展望については、造園業界として考えることと、事業主として考えることの二つの側面から意見交換を行いました。

具体的には、「他団体・異業種との交流を深め情報を共有していく」「地域団体との協議会をつくり、社会貢献活動を活発に行っていく」「長野県で制定されている街路樹の日を全国に広めていく」「公園等の指定管理は地元業者が行うよう努力をする」「資材、材料を安定確保するための組織をつくる」などが話し合われました。人材確保の問題と合わせて、簡単ではないテーマであったが、様々な地域でも同様の問題意識があることが共有でき、参考になる意見が多数ありました。



▲富士山世界遺産センター視察



▲開会のことば（依田副会長）



▲活発な意見が飛び交う協議風景

LANDSCAPE
YAMANASHI 08

「Mirai プロジェクト」に参画して

「Mirai プロジェクト」とは、地元企業・団体のニーズや課題に対して、県内の大学生と協働して取り組んでいくプログラムで、若年層の人材育成も兼ね平成30年度から参加しています。

協会が選んだテーマは、「山梨県における都市の緑の評価と提案」です。市街地の緑は、そこで生活する人々に安らぎや心地よさを提供しています。景観の観点から市街地の街路樹や公園等の緑を調査、評価しながら、若者が山梨に住みたくなるような街並みの緑を考え、提案していきます。

6月より身近な街路樹について、現地調査や写真撮影を行い、景観の評価手法を立案してそれに基づき、4路線の道路について評価しました。10月には先進地となる県外の道路視察を行いました。県内の道路景観向上に向かって街路樹の活用方策の提案を目標とし、平成31年2月15日のMirai プロジェクト報告会で発表する予定です。

参加している学生は「普段何気なく通過するだけの道路でしたが、調査検討を進めていくにしたがい街路樹の役割や樹種の選定等を理解することができ、道路を利用するときの視点が変わり興味深くなつた」等前向きな感想があり、これを機に多くの学生に情報を共有してもらい景観づくりにつなげていきたいと考えます。業界人の持つ固定観念にとらわれない斬新な意見も多数あり、成果にも期待が持てそうです。

多くの大学生に自分が生活する山梨の景観について今まで以上に興味を持ってもらい、さらに良好な生活空間の創出に向けた未来計画の策定に取り組んでいきます。

今後もこのプロジェクトに参加し、県内の景観向上に寄与するとともに、またプロジェクトを通して造園業界に興味を持っていただきたいと考えています。



▲ 未来計研究社ガイドブック



▲ 打合せの様子



▲ Mirai プロジェクト県外視察

STIHL®

緑化園芸機材・林業・農業機械・鳥獣害対策機器・刃物
森林アウトドア用品・薪ストーブ・薪ボイラー・除雪機
保冷庫・木材加工機材・保安用品（スパイク付ブーツ等）
高圧洗浄機・法定器具・キノコ菌類・食品乾燥機

地球への愛、人への優しさ。
当社は優れた品質で社会に貢献します。

山梨スチール株式会社

〒400-0047 山梨県甲府市徳行 4 丁目 13-5 <http://www.yamanashi-stihl.co.jp>
TEL : 055-226-3656



**株式会社
山梨環境サービス**

公益社団法人 日本下水道管路管理業協会会員

〒405-0069 山梨県笛吹市一宮町東新居 1065-1
TEL/0553-47-3305 FAX/0553-47-3306
E-mail yamakan@yks-eco.co.jp
URL <http://yks-eco.co.jp/>



LANDSCAPE
YAMANASHI 09

青年部の活動報告

◆甲府市緑化まつり

4月20日、甲府市緑化まつりに参加し、剪定の講習や竹とんぼ製作、エクステリア商品の展示などをしました。

◆青年部定例会

4月26日、定例会を開催し、グループに別れて今後の造園について等のテーマについて話し合い、発表しました。

◆武田流門松講習会

9月13日、部員20名が参加し、現代の名工の小林稔蔵先生の講師による武田流門松講習会を開催しました。

◆やまなしクリーンキャンペーン

9月28日、部員15名が参加し、甲府駅南口にて花・ハーブ・野菜の種1000袋とチラシ等を駅利用者、周辺住民に配布しながら、環境美化を呼びかける街頭キャンペーンを行いました。

◆山梨県林業まつり～森林フェスティバル～

10月20・21日、部員26名が参加し、樹木・苗木・野菜の販売を行いました。また、「やまなし街路樹フォトコンテスト」受賞作品の展示や、全国造園フェスティバルの広報活動として花の種を無料配布しました。



▲山梨県林業まつり～森林フェスティバル～



△武田流門松
講習会



▶
やまなし
クリーンキャンペーン

LANDSCAPE
YAMANASHI 10

表彰

(一社)日本造園建設業協会 造園建設功労賞



(株)石原グリーン建設
代表取締役
石原 政人氏

当協会会长である石原政人氏は、平成30年6月22日東京都千代田区ホテルグランドアーツ半蔵門で開催された日本造園建設業協会総会において、氏の長年の緑化事業の推進

や業界の発展に対する業績が評価され、造園建設功労賞を受賞した。

山梨県環境緑化功労賞



(株)河口湖庭園
代表取締役
梶原 陽一氏

当協会理事・総務委員会委員である梶原陽一氏は、平成30年10月20日小瀬スポーツ公園で開催された山梨県林業まつり記念式典において、環境緑化推進の功績が

高く評価され、後藤斎山梨県知事より表彰された。

建設雇用改善改良優良事業所 建設産業団体連合会会長表彰



(有)荻野造園
代表取締役
荻野 あさ子氏

(有)荻野造園は、平成30年11月27日アピオ甲府で開催された平成30年度建設雇用改善推進大会において、優良事業所として浅野建設産業団体連合会会長から表彰された。

一般のお客様にも建機レンタル及び販売を致しております！

<http://www.kouyo.jp/>

街のどこかにKKL

AKT/O グループ

甲陽建機リース株式会社

本 社 ● 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町 797 TEL055-237-7801

リース事業部 ● 〒400-0815 山梨県甲府市国玉町 797 TEL055-237-7821

韮崎ハウス工業 ● 〒407-0033 山梨県韮崎市竜岡町下条南割 591 TEL0551-21-2302

営 業 所 ● 甲府・韮山・韮崎・身延・吉田・大月・竜王・甲西センター



HITACHI

Reliable solutions

ミニショベル
ZX30UR



繋りたい 聞きたい 聞かしたい
現場のことなら丸ごと任せ
日立建機ニッポン！

日立建機日本株式会社
<https://japan.hitachi-kenki.co.jp/>

甲府営業所

山梨県甲斐市玉川1561-2 TEL:055-279-2422

(一社) 山梨県造園建設業協会 会員名簿 50音順

会社名	代表者名	住所	電話番号/FAX	E-mail / U RL
(株) アセラ技建	久保田茂樹	甲府市蓬沢町 1171	055-233-4617 055-233-4633	giken@acera-jp.com
(株) 石和植木	齊藤 正隆	笛吹市石和町川中島 378	055-263-2070 055-262-4889	isawa@mbd.nifty.com
(株) 石原グリーン建設	石原 政人	甲府市高室町 269	055-241-2001 055-241-0822	office@green21.co.jp http://www.green21.co.jp
(株) 雲松園	大塚 広夫	北杜市小淵沢町 3630	0551-36-2432 0551-36-4128	info@unshouen.co.jp http://www.unshouen.co.jp
(有) 萩野造園	萩野 あさ子	甲府市伊勢四丁目 1-12	055-235-4045 055-231-2020	ogino@peach.ocn.ne.jp http://www.oginozouen.com
(株) 帯金造園	帯金 岩夫	甲府市池田二丁目 11-12	055-251-4128 055-251-4194	office@obikane.co.jp http://www.obikane.co.jp
(株) 河口湖庭園	梶原 陽一	南都留郡富士河口湖町船津 4940-1	0555-72-0635 0555-72-5435	yozan@kawaguchiko.ne.jp
(有) 窪田造園	窪田 司	甲斐市中下条 1673	055-277-2111 055-277-8881	kubotazouen@za.wakwak.com
甲南緑化(株)	岩田 めぐみ	甲府市高室町 721	055-241-6136 055-241-6135	kounan@maple.ocn.ne.jp
河野造園土木(株)	河野 嘉孝	甲府市下飯田二丁目 5-27	055-222-4396 055-222-0555	info@kzd.co.jp http://kzd.co.jp
(株) 三枝造園	三枝 正雄	富士吉田市松山 1267-6	0555-22-1174 0555-22-2219	yamau.s-zouen@tbz.t-com.ne.jp
(有) 坂本造園	坂本 篤彦	韮崎市若宮二丁目 9-39	0551-22-0301 0551-22-0322	sakamotozouen@bg.wakwak.com https://sakamoto-zouen.com
三協造園(株)	八木 幸彦	西八代郡市川三郷町市川大門 4796	055-272-6000 055-272-7777	sankyouzoen@beetle.ocn.ne.jp
(有) サンリツ造園土木	富岡 信也	甲府市善光寺町 3135	055-268-3110 055-268-3118	sanritsu-2006@topaz.plala.or.jp
(有) 敷島緑化土木	石水 秀樹	甲斐市島上条 1664	055-277-2530 055-277-8311	sryokkas@cronos.ocn.ne.jp http://www.shikishimaryokka.jp/
(株) 芝保	藤原 辰男	甲府市貢川本町 18-20	055-237-7000 055-224-5555	shib0377@peach.ocn.ne.jp http://shibaho.jp
(有) 清水造園	清水 文一	甲府市里吉一丁目 7-21	055-233-9748 055-233-9758	shimizu.z@sea.plala.or.jp
(有) 志村樹苗園	志村 好啓	甲府市緑が丘一丁目 4-4	055-253-6983 055-253-6985	shimura.sdv4@rouge.plala.or.jp
(有) 須田造園	須田 良英	笛吹市八代町米倉 729	055-265-2452 055-265-3691	suda@arion.ocn.ne.jp http://www.land-s.co.jp
中央造園土木(株)	今村 尚人	甲府市徳行一丁目 9-27	055-226-4525 055-226-4573	info@chuouzouen.co.jp http://chuouzouen.co.jp
辻緑化土木(株)	辻 宏幸	甲府市朝氣三丁目 3-16	055-233-9545 055-233-9542	info@tsuji28.net http://www.tsuji28.net
(株) 津々美造園	堤 明伸	甲府市愛宕町 146	055-253-2188 055-253-7835	tsutsumi@mx10.ttcn.ne.jp http://www.tsu2mi.com
(有) 東香園	名取 満	南アルプス市十日市場 1828-1	055-282-0970 055-282-0952	tou-kou@eps4.comlink.ne.jp https://tou-kou.jimdo.com/
(株) 仲村造園	仲村 清輝	北杜市明野町小笠原 3838	0551-25-2348 0551-25-2439	naka-lal@aurora.ocn.ne.jp
野尻造園建設(有)	野尻 広光	韮崎市穂坂町宮久保 5122-2	0551-22-0615 0551-22-2531	h-nojiri@amber.plala.or.jp
富士観光開発(株)	志村 和也	南都留郡鳴沢村字富士山 8545-2	0555-86-3311 0555-86-2440	kensetsu@fujikanko.co.jp http://www.fuji-net.co.jp/
富士急建設(株)	飯島 慶一	富士吉田市新西原五丁目 2-1	0555-22-7151 0555-22-7153	fken@fujikyu-kensetsu.co.jp http://www.fujikyu-kensetsu.co.jp
(株) 富士グリーンテック	森 明彦	甲府市富竹三丁目 1-3	055-236-1600 055-224-5520	honsya-soumu@fujigreentech.jp http://www.fujigreentech.jp/
(有) 美園造園土木	武藤 洋一	甲斐市玉川 1447-4	055-276-9241 055-279-8671	misono610@s2.dion.ne.jp http://www.yamanashi-machitsukuri.jp/mizonozouen/
(株) 明桃園	角野 勝	南アルプス市桃園 968	055-282-4128 055-282-4190	meitoen@khaki.plala.or.jp
山梨ガーデン(株)	依田 忠	南巨摩郡富士川町最勝寺 1514	0556-22-4181 0556-22-2359	y.garden@cronos.ocn.ne.jp
(有) 山宮造園	山宮 一哲	甲府市大里町 3608	055-241-2256 055-241-2078	yamamiya@kvj.biglobe.ne.jp
(有) 吉井造園	吉井 公人	甲斐市西八幡 4044-6	055-276-0470 055-230-6322	yoshii-zouen@ag.wakwak.com